２０２６年度

学校法人梅花学園 事業計画書

２０２６年3月28日

梅花学園の建学の精神

キリスト教精神に基づき、他者への愛と

奉仕の精神を備える自立した女性を育成する

教学の理念

梅花学園は、キリスト教精神に基づき、人間として自分の生きる道を見出してその道を歩む力を身につけると共に、多様な価値観を認めて隣人と連帯する意欲を持つ人を育てる。さらにのびやかな感性を養い、調和のとれた知性をもって社会に適応すると共に社会に貢献する人が育つように努める

スクール・モットー

人にしてもらいたいと思うことは何でも、
あなたがたも人にしなさい。

（マタイによる福音書七章十二節）

２０２６年度　学校法人梅花学園　事業計画

Ⅰ．学園の基本方針

建学の理念であるキリスト教精神に基づく人間教育を実践し、小規模な女子学園の特色を生かして以下に掲げる使命を果たす。

１．各設置学校において、教育の特色を明確に打ち出し、育成する人材像を社会に明示し、その約束を果たす。さらに、教育内容と学生・生徒・園児への各種支援・サービスを充実させ、満足度の向上を図る。
２.総合学園であるメリットを生かして、学園内の学校間における教育連携事業を推進する。
３．教職員に対し就業規則に基づくコンプライアンス教育を徹底し、教育機関に相応しいガバナンスを示す。また、学内の情報共有の徹底を通して組織間連携を向上させ、ガバナンスの強化を図る。
４．各設置学校においては事業活動収支の均衡をめざし、大学・中学校・高等学校・幼稚園とも独立採算を見据えた予算を編成することで学園全体の財務体質の強化を図る。そのために、各設置学校それぞれの部門において徹底した経費の効率化に取組み支出を抑制する。また、学生・生徒等の入学者の増加により経常収支の改善を図り、長期的な財政見通しの中で施設設備の維持・保全に必要な資金の確保にも取り組んでいく。
５．危機管理と情報管理を適正に行い、併せて外部の情報を積極的に収集し、これに基づき時代の要請に対応した戦略に基づく経営を推進する。
６．学内外に対し情報の公表を行い、教学および経営の説明責任を果たす。

Ⅱ．学園改革への取組み

変化する世界情勢、さらには国内においては教育改革が推し進められるなか、本学園においてもこれに対応すべく、2028 年度の学園創立 150 周年に向けて、大学においては学部・学科の見直し、中学・高等学校においては進路の充実、幼稚園においては認定こども園化を図り、施設設備リニューアル及び備品類の整備、ICT 教育や生成 AI 活用による教育内容の充実など各学校において改革を進める。

2026年度においては、本学園の現行の体制を見直すことにより、より一層社会から求められる人材を輩出する学校をめざして、さまざまな観点から工夫し不断の改革に取り組み、学園全体のブランド力を向上させ、社会的評価を得ることに努める。

１．各設置学校は文部科学省が進める教育改革に対応し、教育内容の見直しと充実を図り、それぞれの教育目標に定める人材養成に沿った教育を推進する。
２．安定した財政基盤を確立するために、入学者の確保と収容定員の充足に努める。このため、各設置学校においては各種行事・イベント・学校間連携・産官学連携等を通じて知名度とブランド力を高め、募集活動を強化する。

Ⅲ．事業計画の概要

１．　教学充実、学生・生徒・園児支援の取組み

（1） 大学

学園の基本方針に基づき、学生の立場に立つ教育、学生一人ひとりを十分に理解し、向学心を引き出すオーダーメイド教育を通して、教育目標「チャレンジ＆エレガンス」を確実に実現する大学をめざす。

① 建学の精神の浸透

１）建学の精神であるキリスト教主義に基づく人間形成をめざすため、学生および教職員に対し、礼拝（チャペル・アワー）への積極的な参加を促す。

２）教職員対象の「建学の精神研修会」を開催し、建学の精神の理解を深める。

３）建学の精神に基づき、学生一人ひとりに寄り添い、充分なコミュニケーションを通して丁寧な指導を実践する。

② 教育・研究の充実

１）教育目標を実現する真の教育力をもつ大学をめざすため、教育の改革・改善に関する取り組みを全教員に促し、教育上の優れた取り組みに経費補助を行う。

２）教員の研究活動の活性化を図るため、外部の各種研究助成の案内を通して、積極的な研究活動を促すとともに、優れた個人研究およびプロジェクト研究に対して助成金を公付する。

３）授業実践報告会や学生による授業アンケートなどを通して、個々の教員の授業改善および教育力の向上を図る。

４）教養科目・主専攻科目・副専攻科目の学びの一元化を通して、建学の精神に基づく「仕事力ある真におしゃれな女性」の育成をめざす。

５）部長会、開設準備委員会等において大学の学部学科構成や教育内容の充実に関する検討を進め、その具体化を図る。
その一環として、2026 年度には国際英語学科から国際教養学科に名称変更、2027 年度こども教育学科を募集停止とすることが決定している。さらに、総合心理学部総合心理学科と情報メディア学部情報メディア学科の 2027 年度開設に向けて届け出による申請を進める。

③ GCV（グローバル・コミュニケーション・ヴィレッジ）の活用促進

１）すべての学生を対象に、GCV を英語および韓国語の外国語の実践練習が気軽にできるスペースとして、個別対応の語学セッションを推進する。

２）ハロウィン・ウィーク等のイベントや、本学ネイティブスピーカーまたは外部講師による講演等を実施する。

３）学科・学生からの要請に応じて、英語や韓国語の面接対策講座を実施する。

４）留学や海外研修を終えた学生たちが交流する場、また本学に留学する外国人学生が交流する場を提供する。

④ 産官学の連携

社会で活躍できる力を実践的に学び、自らの発想を社会に発信する本学独自の産官学連携を、全学生に積極的に推進する。

⑤ 梅花歌劇団「劇団この花」

本学の学問と融合した文舞両道をめざす全国的にも類をみない「劇団この花」は、エレガントな生き様を描くオリジナルミュージカルの公演、さらには社会福祉施設や各種イベント活動においても公演を実施し、心身ともにエレガントな女性の育成をめざしてきた。2026 年度文化表現学部舞台芸術表現学科開設に伴い、学科教育へと発展的統合を進める。

⑥ 学生支援

１）出席管理システムやクラスアドバイザー制度などを活用して、学生に寄り添うきめ細かな学生指導を行うことで、学生の成長を促す。また、各学科の状況に応じた離学防止策を徹底することで離学者を未然に防ぐよう努める。特に、新入生に対しては、入学直後および定期的に面談を繰り返し行うことで、学生一人一人の状況を把握し、それに応じた丁寧なサポートを行う。

２）学長キャンパスミーティングを開催し、授業や学生生活等に関する学生からの意見・要望を聞き取り、教育環境並びに学生生活環境の改善を行う。

３）１年次生および３年次生を対象にアセスメントテスト（「GPS-Academic」）を行い、その結果を分析することにより、教育改革並びに学生支援に役立てる。

４）文部科学省実施の全国学生調査に参加し、学修の主体である学生の目線から大学教育や学びの実態を把握することによって教育改善に活用する。また、学生にとっては学修と大学生活を充実させ、進路を考える契機となるようにする。

５）卒業後の就職対策として、各種の国家試験および教員採用試験等の対策　講座を実施する。また、秘書検定をはじめ MOS 試験、日本語検定、TOEIC Listening & Reading IP テストなどの資格取得支援を行い、受検料の補助を実施する。

⑦ エレガントな女性の育成のために

１）マナー教育

キャリア基礎科目「初年次セミナー」において、エレガントな女性の育成に向けて、その手引書となる『梅花マナーブック』を基にマナー教育に取り組む。

２）美しい日本語教育

共通教育科目の必修科目「美しい日本語（話し方）・（書き方）」を通して学生の言葉の素養を引き上げる。また、挨拶の励行や TPO に応じた正しい言葉遣いの実践に取り組む。

⑧学部・学科の取り組み

文化表現学部

＜情報メディア学科＞

１）「情報メディア学部情報メディア学科（構想中）」新設に向けて、広報活動を活発化させる。

２）クリエイティブな作品を制作・発信するため、高度な IT 環境の整備を進める。

３）AI を用いた教育支援システムの導入を進める。

４）大学・学科の広報活動および実践的教育の場として、問題発見・解決セミナーおよびゼミ主導による各種企業とのコラボ企画や学外コンペへの参加を推進する。

５）ゼミ等成果発表の機会として、年度末に「成果報告会」を開催する。

＜日本文化学科＞

１）日本の歴史や文化に関する体験学習を通して、学生同士の親睦や教員との信頼関係を深める新入生対象の「京都研修」（1 泊 2 日）を行う。

２）国内旅程管理主任者資格取得のための「国内旅程管理研修（東北文化歴史研修）」を行う。

３）４年間の書道学習の集大成として、成果を学内外に示す「卒業書作展」を、年度末に茨木キャンパス内で開催する。
４）日本文化学会主催の「春季講演会」、「歴史･文学旅行」、「秋季講演会」を行う。

＜国際教養学科＞

１）２年次後期からの海外実習・留学に向けて、「TOEFL-ITP」（年３回）の受験および就職活動を視野に入れた「TOEIC-IP」（年２回）の受験を推進する。
２）学科の学びの核となる異文化理解を深めるため、１年次生を対象に海外研修（マレーシア）を実施する。あわせて、希望者には総合旅程管理主任者研修を実施する。
３）上記、海外研修に備え、「初年次セミナー」において、マレーシアの文化を事前に学ぶことを目的としたフィールドワークなどを実施する。
４）国際社会について幅広く学ぶ機会として、外部講師を招聘し、特別講義を実施する。
５）専門科目「メイクアップ・テクニックⅠ・Ⅱ」に関連し、メイクアップ技術検定（２・３級）受験のため、受験料補助を行う。
６）医療事務・上級秘書（副専攻）において、上級秘書士（国際秘書）の資格取得をめざす過程で、キャリアデザインの幅を広げることを目的に、外部講師によるロールモデルを提示する機会を設ける。
７）１年次「問題発見・解決セミナーⅠ」および２年次「問題発見・解決セミナーⅡ」の授業において、産学連携事業を適宜行う。
８）国際英語学会および国際教養学会主催の各種イベント（春季講演会および秋季講演会、ハロウィン・クリスマスパーティーなど）を開催する。

＜舞台芸術表現学科＞

１）舞台人（アーティスト・クリエイター）として必要となる技術・知識を、体系的に学ぶため開設初年度より学生一人一人に対応する細やかな実践的授業を行う。
２）多彩な実践の場を初年次より多く儲けるため「劇団この花」との連携により「イベント出演」や「公演参加」など学内外での発表の場への参加を推進する。日々の学びのアウトプットの機会が常にある状況を設ける。
３）芸に対する姿勢や将来の様々な活躍の在り方を学ぶため、第一線で活躍されている方の講演会を実施する。2026 年度は、学科開設特別講演会として、第１回は、４月４日には井上芳雄氏の講演と歌唱披露。舞台芸術表現学科教員（謝珠栄教授・中本千晶准教授）とのトークセッションの実施を予定している。第２回、第３回も予定している。
４）技芸や歴史や文化を学ぶために様々な舞台の鑑賞機会などを持つとともに、２年次に全員参加の「ロンドン海外研修」にむけ授業内外で学びを深めていく。

心理こども学部

＜こども教育学科＞

1）保育士資格、幼稚園・小学校教諭一種免許状およびこれらに付加価値を加える各種の資格取得に向けて、学生一人一人のニーズに応じた親切で丁寧な指導・支援に努めるとともに、実習指導、就職支援及び採用試験対策(チャレンジ講座等)に取り組む。
2）学生が主体となって絵本の読み聞かせ、造形遊び、音遊び、工作等、各種イベントを計画、実行することで、学生の実践力の向上をめざす。
3）こども学の研究推進、イベントの開催、広報誌の発刊など、こども学会の自治的な活動の活性化に向けて支援する。
4）実践的な教育の場として産官学連携事業を推進し、共同的な学びに取り組む。
5）各種実習の充実を図るため、実習先との連携を深める実習懇談会を開催する。
6）子育てひろば「こうめ」の実施、茨木市保育士等キャリアアップ研修への講師派遣、校内・

園内研究会での指導助言、自治体や各校園等からの要請による講座の開講など地域に根ざした事業に取り組み、大学、学科の認知度を高める。

＜心理学科＞

１）基礎学力の向上とキャリア意識向上を目的として、全学年に対して Google フォームを利用した独自の「プルミエプログラム」を実施する。

２)学外実習(医療･教育･福祉･産業･司法)に向けて､学内での｢SST(Social Skills Training)」や「ペアレント・トレーニング」､「こども音楽療育実習」等の体験授業を通して、大学院進学への動機づけを高め資格取得にむけた学習を推進する（公認心理師専攻)。

３）子ども支援に関わる実践力向上を図るとともに、教諭免許状取得をめざし、採用試験対策に取り組む（特別支援学校教員専攻)。

４）産学連携において、学科科目目標と企業ニーズのマッチングを重視した企画を立案実行し、学生のキャリア意識を高める（キャリア心理専攻)。

５）動物介在専門機関と連携し、動物（犬・馬・ゾウなど）と触れ合う訪問活動や実習（幼稚園や病院等)、海外研修を通して共生の心を育む（アニマルセラピー専攻)。

６）３年次生によるゼミ活動報告会や４年次生による卒論公聴会を開催し、低学年学生のゼミ活動に対する意識を高め、心理学への学習意欲向上を図る。

７）大学院では、地域への助言支援活動、心理教育総合相談センターでの地域の来談者への相談活動を通した、実践力を備えた心理職の育成とともに、臨床心理士・公認心理師両資格対応のカリキュラム充実を図り、資格試験合格率向上をめざす。

８)「心理学科通信」の発刊を通して、学科内活動の学内外への広報を推進する。

食文化学部

＜食文化学科＞

１）調理師としての技術習得のため、授業時間外においても実習指導に取り組む。

２）調理科学分野における実験体制の構築および基礎的知識の向上をめざす。

３）調理・製菓分野における学習意欲の向上を図り、学外のコンテスト・技術発表の場への参加を推進する。

４）多様な食の歴史や文化を学ぶために「学外研修」および「学会講演会」を開催する。２年生については全員参加の「海外研修」を、１ 年生については全員参加の「国内研修」を実施する。

５）食育・食ビジネスに係る内容について企業とのコラボを推進し、新商品の開発・販売を行い、実践的な学びを通して学生の総合力を高める。また 1、2 年生対象授業を中心に、企業関係者による講義も多数実施する。

＜管理栄養学科＞

１）１年次から国試対策に取り組み、国試対策講座を強化することにより、管理栄養士国家試験合格率 100%をめざす。また、e ラーニングシステムを活用し、学習時間の増加と知識の定着を図る。特に４年次では、学科教員による対策講座で基礎知識の理解と定着を図り、外部講師による特別講座で国家試験に特化した知識と応用力を身につける。さらに、卒業生による国家試験勉強体験談の会を計画的に開催し、学習への意欲の維持・向上を図る。

２）新入生には、オリエンテーション、初年次セミナー、各授業等で、管理栄養士資格取得の意識を高める。

３）オープンキャンパスやその他の入試広報イベント、高校との連携授業などを通じて学科の学びに対する理解と関心を高め、入学定員の確保を図る。

４）大阪府中央卸売市場、食品衛生検査所など、食品、栄養、健康に関する専門機関と連携

し、学外研修を行う。
５）問題発見・解決セミナー、ゼミなどを通じて産官学連携企画に取り組み、社会ニーズに貢献できる問題解決力と創造力を養う。
６）臨地実習報告会、卒業研究発表会を開催し、低学年にも公開して臨地実習やゼミ活動に対する意識を高める。
７）離学対策として、低学年に対してクラス間の交流や、教員・助手、上級生との交流の機会を増やし、学生主導の勉強会やイベント活動などを企画する。

看護保健学部

＜看護学科＞

１）主体的に学生間の交流ができるように、看護学科学生交友会と学科との共催で新入生との交流会を開催する。また、ホームカミングデーなどを通して卒業生と在校生の交流の機会を設け、看護職へのモチベーションの向上を図る。（継続）
２）国家試験の合格率 100%を目指し、１年次から各学年に国家試験対策講座を行う。
３）病院説明会を開催し、病院の特色を理解する機会を提供するとともに、学生が自己の目標や将来像を明確にできるよう支援する。
４）１から４年生のすべての学年に対し、看護技術の習得を図るため、１年間を通して、演習室を定期的に開放し、技術指導を実施する。
５）看護学科 FD の推進により、教員の教育・指導・研究力の向上を図る。
６）行政や病院と連携して、地域住民の健康意識の醸成を目指す取組みを行う。
７）実習指導者会を開催し、実習施設との連携強化を図る。
８）大阪府看護協会府北支部・大阪府看護系大学協議会での交流により、関係機関の情報の収集を図る。
９)日本看護学教育評価機構が実施する評価員研修の受講等により､他大学の情報収集を図り、受審準備について検討する。

＜口腔保健学科＞

１）近隣都道府県の歯科診療所ならびに歯科医師会・歯科衛生士会を対象に、本学科の周知・広報活動を実施し、学生募集の強化を図る。
２）歯科衛生士資格の全員取得に向けて、国家試験対策講座と補講・支援を強化する。
３）教職課程選択者には養護教諭一種免許状の取得に向け指導・支援する。
４）歯科関連の健康イベントへの参加や地域貢献活動など、人と社会を知るフィールド体験を推進する。
５）口腔保健学会活動の一環として、学生、大学院生、卒業生、教員を対象として、本学での学びと研究の成果、卒業生の活躍状況等を発表するシンポジウムを開催する。
６）離学対策の一環として、保護者会を開催し、保護.者との連携・協力関係の構築を図る。
７）臨床臨地実習指導者会議を開催し、学外の実習施設との連携を強化する。

（2）中学校・高等学校

建学の精神に基づく教育活動を通じて、コミュニケーション能力を高め、円滑な人間関係を構築し、真に社会貢献のできる、人間性豊かな自立した女性の育成をめざす。そのために、全教職員が建学の精神を共有し、「愛なる女学校」ならびに「チャレンジ＆エレガンス」「学び楽しく美しく」をテーマとして、日々の教育活動に活かすことをめざす。

また、2028 年度の学園創立 150 周年に向けて教育内容のさらなる充実と施設のリニューアルを進めるとともに、今年度豊中移転 100 周年記念行事を行い建学の精神を確認

する。

①改革推進の取り組み

・社会の変化とニーズに対応しながら、生徒それぞれが夢を持ち、その実現を可能にすることを目標に、全ての学力層の学力向上と、思考し、実行できる力を習得できるように選択科目の内容や土曜日の講座を充実させていく。また、中学高校教育改革・IT 推進部会を組織し、より魅力的な教育の提供と IT を利用した ICT 教育の促進と業務の効率化を図る。

②5 日制による土曜日の活用

・土曜日を活用した SSI (Study Self Investment)と呼ぶ特別講座を充実させる。主に土曜日の午前中に実施し、学力向上を目指すだけではなく生徒の興味関心を拡げ、将来の職業への選択肢を増やし、豊かな人生を送るきっかけを与えられるような様々な講義・実習・体験・高大連携授業を実施する。

③学力向上への取り組み

・教育ソフト（スタディサプリ）のさらなる活用促進を図る。教員対象の研修会を開き、iPad（中学及び高校1,2 年 3 年国際教育専攻)、クロムブック（高校 3 年国際教養専攻を除く各専攻）の活用法を研究し、利用することにより生徒の学力に応じた指導を充実させる。
・大学進学に向けて、進路指導部内に「進学実績向上プロジェクト（仮称)」を立ち上げる。特進コースについて３年計画で国公立大学や関関同立（指定校を除く）等の難関私立大学の目標合格者数を設定し、目標達成に向けて具体的な学習方法を企画・立案する。
・英国数（特進は理社も）の授業内容を「試験で良い点数を取る」ものから「模試で点が取れる」方向へシフトする。ベネッセ模試偏差値＋5（特進は＋10）アップ等の目標設定し、その実現に向けて具体的な方法を企画・立案する。iPad を利用し、国が提唱する「個別最適化教育」を推進する。すでに教育ソフト（スタディサプリ）を導入しているが、さらなる活用促進を図る。教員対象の研修会を開き、iPad の活用高を研究し、併せて生成 AI を利用することにより生徒の学力に応じた指導を充実させる。
・大学進学に向けて実力テストを実施し、その結果は内部推薦や指定校推薦の判定材料としても利用する。
・長期休暇中に受験講座を実施し、進路実績の向上をめざす。（特別進学コースは河合塾との連携を含む）
・中学において、英語、数学を習熟度別のクラス編成にする。
・中学において、中間・期末考査以外に年３回５教科の学力考査を実施し、学力の定着を図る。（１年生第１回は国数のみ）
・講座等で学び直しの教育を推進し、中学生は小学校高学年、高校生は中学校課程の復習をする。基礎を整えることで、高校の学習の土台を固め、自信をもって高校の学習に励むことが出来るようサポート体制を作る。

④英語教育の充実への取り組み

・外部派遣のネイティブ講師や留学生とのアクティビティーおよびディベートの研修（English Communication Day）をグローバル・特別進学コース以外のコースにおいて実施する。
・実用英語検定（英検）を中学生・高校生全員受験とし、中学卒業時に 3 級、高校卒業時に特別進学コース（特進Ｓ専攻)・グローバルコース（国際教養専攻）は 2 級、他の専攻は準 2 級の全員取得をめざす。

・ECC と連携し希望者に英検対策講座、夏期・冬期集中英会話レッスンを実施することで英語の４技能運用能力強化をめざす。
・English Only Space を活用することで、さらなる英語力の向上をめざす。
・高校２年生グローバルコースの学期留学はカナダで実施する。また、オーストラリアのセント・マーガレット校より生徒が来校し、交流を深める。
・同窓会の創設するグローバル人材育成プロジェクトにより最大 4 名の中学 3 年生の生徒を選び国際教養専攻の学期留学プログラムに参加させる。
・イングリッシュシャワーとして中庭で BBC ニュースを流し、常に英語を耳にする機会を作りリスニング力のさらなる向上をめざす。
・中学１年生は、外国人講師による「英語による体験授業」を実施する。
・中学２年生は、和歌山県和歌山市で英語宿泊研修を実施することで、外国人講師のレッスンをより多く効果的に受講できるようにする。
・中学３年生の修学旅行はハワイで実施する。また、事前学習として調べ学習を行い、調べた内容をプレゼンテーションする機会（７～９月）を設ける。
・English Elite Member として英検２級以上を取得した生徒に Member の称号を与え、週１回 Elite Member の特別レッスンを実施することで英語に対して自信と誇りを持てるようにする。梅花の英語のリーダーとしての活躍を期待するとともに、英検取得のモチベーションの一つとして活用する。

⑤教師力向上に向けて
・安定したより良い教師力を育成するため、教員研修の有効な実施法を研究し実施する。（ハラスメント、不登校生徒対応、接遇、教養等）
・ICT 教育や e ラーニングに向けて中学高校教育改革・IT 推進部会での成果をもとに ICT 教育プロジェクトチームを継続し、研究授業を設け、ICT を使った授業展開を多くの教員へ普及させる。
・教員の自己評価、生徒による授業評価を、年１回実施する。また、学外者も含めた関係者評価を実施し、その結果を検証することを通して教学の充実を図る。また、結果をホームページ上に公開する。
・平素の危機管理システムの充実を図り、火災や地震などの災害時の対策として訓練・研修を年３回実施し、万が一の緊急時に備える。また、中学では防犯教室を実施する。
・クラブ指導員も含む教職員全員がハラスメント研修を受け、よりよい教育活動・生徒指導のあり方を身につけていく。
・学力・指導力向上を目指し、教員が予備校や教育機関、大学等が行っている研修に参加し、研修で得た知識や情報を共有する。

⑥「思考し、実行する力」の習得にむけて
・中学の総合学習や試験休み（各期末考査から終業礼拝までの）を利用して各コースの特徴に沿った探究学習や講座を企画・立案を行い実施する。
・特別進学コース・特進Ｓ専攻では年２回の勉強合宿を行い、大学受験に対する学力を高める。さらに長期休暇期間の特別講座：弱点克服やレベルアップを図り、目標達成をめざす。
・看護医療コース・医療看護専攻は「看護学特講」において、２年生で年間を通して現役医師から医療看護に関する講義を受講する。また、学期に２回程度医療の専門職講師による特別講座を実施する。各学年、女子大学看護学科・口腔保健学科・管理栄養学科との高大連携授業を受講する。
・グローバルコース・国際教養専攻は１年生８月にイングリッシュキャンプとしてネイテ

ィブ講師陣を中心に英語オンリーの研修を実施する。また学外の留学生との Global Village Program（異文化協働体験型研修）として校内で留学生との研修を実施する。２年生でカナダに行き、ホームステイをしながら現地校で学ぶ。

・舞台芸術コース・専攻は、四季劇場や梅田芸術劇場で上演されるミュージカルや宝塚歌劇団の公演など、プロのステージを鑑賞することで、表現力の向上をめざす。また芸術発表会“Dream Fest”を梅田芸術劇場シアタードラマシティにて開催し、自己表現を高める。３年生の卒業公演で全体をプロデュースすることで、３年間の総まとめを行う。

・キャリアデザインコースは、コミュニケーションデイを設定し、２年生からのフィールド（分野）選択にむけて各フィールド体験を定期考査後の特別時間帯や土曜日（希望制）に実施する。「進学探求」は企業セミナーや古典芸能体験をとおして経済や社会の仕組み、文化や歴史について学び、社会人となる基礎力を強化する。

・「こども保育」は梅花幼稚園の夏祭り、バザー、クリスマス会等の行事に参加して保育の現場を学ぶ。またピアノ発表会を行い、こども教育の現場で必要となる技術を磨く。

・「調理・製菓」は専門学校や有名菓子店の出張実習や現地実習を実施し、菓子作りや職業に対する意識を高める。また女子大学食文化学科と連携して、製菓・調理実習の充実に努める。

・「アートデザイン マンガ・イラスト」は梅花女子大学や他大学芸術系学部との連携を図り、学期ごとに特別授業を実施する。また作品展・卒展の出品に向け、「総合的な探究の時間」や「HR」を利用して、グループでの大型作品の作成や Illustrator や Photoshop を用いたデジタル作品の制作を行う。その他、コンクール等に出品し、技術向上をめざす。

⑦シリコンバレーラボの活用による ICT 教育の推進

・プログラミング教育の充実を図り、論理的思考力の醸成に努める。シリコンバレーラボでは、昼休み・放課後に情報科の教員が常駐しプログラミングの指導を行う。

・中学の「技術・家庭」、高校の「情報」の授業や「リベラルアーツウィーク」においてプログラミングの授業を行い基本的なスキルを習得する。

⑧修学旅行の充実

・高校では海外コース（中欧）と国内コース（北海道方面）での修学旅行を実施する。国内・海外は選択制とし、セレクトツアーも盛り込み、「1 人 1 人の求める」経験をとおして深い学びが出来るようにする。

・中学では 3 年間の英語教育プログラムの達成としてハワイに行く。

⑨中学総合学習等での取り組み

・各学年で iPad を用いるなどした調べ学習を行い、情報を収集・整理し発表することで、生きる力を養う。また、全学年でマナー講座を受講することで、梅花の品位を体現できる生徒育成をめざす。さらに、全学年歌劇鑑賞会（年２回）を実施することで情操教育の一環とする。

⑩高大連携の見直し

梅花独自の魅力ある授業をめざし、上位高等教育機関としての梅花女子大学との高大連携授業科目を継続して実施する一方、2026 年度からは土曜日実施の希望制講座に重点を置き、生徒の興味関心を深め、職業選択の幅を拡げる時間とする。

⑪芸術作品展・卒展の実施

１月に卒業生を中心とした生徒の美術や書道など作品の展覧会「卒展」を開催し、生徒の情操教育・感性、モチベーションを向上させると共に、梅花ブランド力を広く一般にアピールする。

⑫校外イベント ＆ 入試説明会の実施

エキスポシティで実施の「２day キャンパス」と学校説明会を組み合わせて開催することにより、出演者の成長を期待すると共に、広報面においても勢いのある「梅花」をアピールする。

⑬優秀生徒表彰の新設

卒業時に成績面だけでなく出欠や課外活動の実績も含め総合的に判断した優秀な生徒を表彰し、その頑張りを評価する。また「人にしてもらいたいことは何でも、あなたがたも人にしなさい」という澤山先生の愛唱句であるスクールモットーを実行した生徒には「澤山賞」を授賞する。

⑭不登校生への対応強化

- 高校の不登校生徒を対象に「北館教室」を継続し、保護者と担任、カウンセラーと連携して生徒一人ひとりが登校や進級に対して意欲的に取り組める環境づくりを行う。
- また、女子大学伊丹教授による研修会の実施および同教授を定期的に招聘し、特別配慮の必要な生徒への対応について、指導・助言を仰ぐ。

（3）幼稚園

キリスト教の精神を基本として子どもの主体性を尊重し、自分で気づき、考え、自己決定することのできる遊びを中心とした保育を行い、未来社会で生き抜くための力の基礎を備えた子どもの育成をめざす。また、園児・保護者をはじめ地域社会からのニーズと信頼に応えるとともに、2027 年度の幼稚園型認定こども園移行に向け、教育内容の充実と施設のリニューアルを進める。

①教師の保育力向上と保育環境の充実

- 安易な前例踏襲の保育活動から脱却し、本園の教育理念やキリスト教保育の原点に立ち返って保育のあり方を見直す。
- 教師各々の得意分野を生かして新しい提案や工夫を活発に取り入れ、保育の充実を図るとともにチーム力を向上させる。
- 遊び環境を通した幼児教育の実践が着実に行えるよう、外部講師を招聘した園内研究会を実施して学びを深め、各教師の専門性を磨き、園全体の保育力を高める。
- 地域社会で求められている質の高い教育に応えていけるよう、様々な機関の研修会に教師が積極的に参加し、専門力や実践力を常に更新していく。
- 子どもが様々な『もの・こと・ひと』と向き合い、意味のある体験から豊かな学びを得られるよう、保育室や園庭の遊び環境を見直し、必要な教材や遊具などを再構成する。

②教育関係者間の連携強化

- 女子大学心理こども学部や高校と連携を図り、学生生徒の保育参加や実習等の受入れを協力的に行い、学生生徒が子ども理解をすすめるための学びの場を提供し、幼児にとって様々な人とのふれあいの機会とする。
- 特別な配慮を必要とする幼児へのかかわり方等について、女子大学心理こども学部の教員や関係機関との連携を図り本園の教育力の向上に努める。

③預かり保育と子育ての支援策の充実

- 預かり保育時間の延長と早朝の預かり保育を引き続き実施する。
- 夏休みの預かり保育の日数を増やし、共働き世帯やひとり親家庭のニーズに応えていく。
- 給食日を週４回から隔週５回に増やし、給食献立の充実を図り食育をさらに推進する。

・キンダーカウンセリングを引き続き月１回実施し、臨床心理士による専門分野の立場から子どもの発達や育児の相談等について、本園のみならず地域親子にも行い、保護者の子育てを支援していく。

２．学生・生徒・園児の受け入れ

（１） 大学

① 大学および学部・学科のセールスポイントの訴求

「チャレンジ＆エレガンス」を人材育成のスローガンに掲げ、2024 年度から大きく学びの内容が変わったことを継承し、最大のセールスポイントとする。内容としては全学科で「主専攻」「副専攻」を置き、主専攻では各分野の専門的な知識や技術、副専攻では女性の生涯に役立つ+αとしての資格取得をめざす。教養と主専攻・副専攻の学びの一元化を通して、ワンランク上のキャリアをめざす学びへと進化させ「仕事力ある真におしゃれな女性の育成」さらに女子大学としてはトップクラスの件数を誇る「産官学連携」を柱にした広報展開で他大学との差別化を図る。また創立１５０周年に向けてキャンパス整備や学びの内容の充実を図り、学科ごとに学びの内容をしっかりと訴求する。加えて 2026 年 4 月開設の文化表現学部舞台芸術表現学科、国際教養学科、さらに 2027 年 4 月開設予定である女子大学初の情報メディア学部やスポーツ心理、こども心理などを学べる総合心理学部を前面に打ち出し広報する。この新設４学科を中心とした広報展開により他の学部学科も牽引する広報戦略を実施する。

② 入学案内パンフレット、ホームページ、SNS

入学案内は、個性的な女子大学として他大学との差別化を図り、一層のエレガンス感とおしゃれ感を出すデザインとする。加えて梅花女子大学の特長と魅力を受験生に写真を中心に伝え、詳細は本学ホームページへ誘導するつくりとする。

ホームページについては、受験生をはじめとする閲覧者の動向マーケティングを行い、ビジュアルを重視しつつ、コンテンツを能動的に展開する。また、文化表現学部舞台芸術表現学科、国際教養学科、2027 年 4 月開設予定である情報メディア学部、総合心理学部の新設関係 4 学科を紹介するランディングページを制作し、広報強化を行う。さらには SNS との連動を今まで以上に強化して、動画も駆使しながら投稿数を増やして受験生、高校生にアピールする。

③ 卒業生との連携

卒業生には様々な情報を発信し、繋がりを強化する。母校からの情報を卒業生がダイレクトに受け取ることができる直接的関係性をさらに強める。そのことにより、梅花ファミリーとしての連携を深める。具体的には同窓会と連携して大学で行われる様々なイベントを同窓会のホームページからもリンクできるようにすることに加えて、各地で行われる同窓会支部総会においても積極的に広報する。

④ マス広告の展開

マス広告は、学園創立１５０周年を PR する交通広告を阪急電鉄「茨木市駅」「豊中駅」「川西能勢口駅」に掲出している。また国道１７１号線沿いに京都方面、神戸方面の両方面に学園創立 150 周年を PR する看板を設置している。加えて Google による Web 広告、さらに YouTube、Instagram、LINE といった SNS 広告については、新設 2 学部（情報メディア学部、総合心理学部）の広告を中心に予算強化して配信する。併せて YouTube、Instagram において配信するコンテンツに関しては、外部機関のサポー

トを受けながら受験生が興味関心を引くような内容に作り上げ、同時に学科ごとのチームを編成しSNS 発信を内容、発信頻度ともに強化・充実する。

⑤ 進学相談会への参加

直接受験生と面談し、直に本学の内容や魅力を PR することができる進学相談会・高校内説明会には地元を中心に参加する。また、高校内説明会において模擬授業や学問分野説明などには教員派遣を行う。さらに地方戦略の一環として、地方での進学相談会にも参加し、その際はその地域の高校訪問を中心とした広報展開を行う。参加にあたっては大学の紹介および、相談会後のオープンキャンパスへの参加促進に注力する。

⑥ DM を中心とした受験生へのダイレクトな広報展開

DM 戦略については、ホームリストを最大限活用し、早期より直接多くの受験生へアプローチし接触回数を増やす。また受験生の志望校選択の時期が年々早まりつつあるため、前半に集中させる。ホームリストを活用した DM 実施に関しては、過去の資料請求者のデータを分析する機械学習を活用した「AI 出願予測システム」を導入しているため、各受験生の行動履歴などを基に個別最適化した１to１の DM とし、個々の対象者により効果的と思われる本学の情報を確実に伝達するきめ細かい対応を行う。さらに裾野を広げるため、本学保有リスト以外のアプローチとしては、業者保有のリストを活用する。外部リストを活用する目的はオープンキャンパスへの誘導に限定するため、前半に集中して実施する。後半は入学試験への出願促進を目的として本学保有リストに対して行う。

⑦ 高等学校との連携強化

高校訪問については、北摂地域や近畿圏内の高校を主な対象とし、本学への通学が可能な地域の高校に対しては特に重点的に複数回の訪問を行う。さらに入学実績校からの入学者数の安定化を図るため、引き続き連携協定をはじめとした親密な関係を築くよう働きかける。また、併設高校である梅花高校については、「梅花女子大学インフォメーションデスク」を中心に生徒、保護者、教員に対して梅花高校内で行う本学のイベントや情報を発信し、大学への質問や相談に応じることができる体制を整える。また、梅花高校との高大連携に、今後はさらにその内容を充実させてより強固な高大連携を実施する。教員には大学の動きなどに関する情報、入試制度、偏差値情報などを積極的に共有する機会を持ってさらなる連携を深める。保護者に対しては高校内において本学を紹介する機会を設け、本学の魅力を十分に伝え、学内推薦入学への受験促進を行う。さらに外部の高等学校に対しては個別高等学校単位での「大学見学会」を実施すべく働きかける。また、高等学校の先生方に本学の魅力や教育内容、入試制度を伝える機会として「塾・高等学校教員対象入試説明会」を開催する。１回は中高と合同で行い、１回は大学単独で行う。

⑧ 塾・予備校との関係強化

塾・予備校に関しては、エリアを限定して訪問を重ね、近隣地域での地盤を固める。個人塾には、基本的な大学情報等を提供するなど「相手に歓迎される訪問」を行う。さらに本学のことをもっと知っていただくための機会として塾の教員を対象とした入試説明会を開催し、塾・予備校との連携強化を図る。

⑨ オープンキャンパス等

本学の魅力を最大限に伝えることができる機会と捉え、年間 11 回予定し、４月以降８月までの前半に集中して７回実施する。さらに４月４日には舞台芸術表現学科開設記念として、ミュージカル俳優である井上芳雄氏を特別ゲストとして招き、特別講演＆パフォーマンスを実施する。当日は同時に各学科のワークショップや入試相談などができるブースを設置し、ミニオープンキャンパスのような催しも実施する。年々進路を早期に

決める受験生が増えている状況を踏まえ、早期のオープンキャンパスにできるだけ多数来校してもらえるよう本学保有リストを活用した DM を集中的に実施する。また、地方からの来場促進のため、7 月、8 月実施のオープンキャンパスには香川や滋賀・京都方面より、さらに翌年３月の春のオープンキャンパスにおいては香川から「受験生と保護者のための無料バスツアー」を実施する。

本学の魅力を PR するための学外イベントとして、５月には「2Daycampus」をエキスポシティにおいて、梅花中学校・高等学校と共催することでオール梅花としてのブランド力向上を図る。また 12 月には「梅花クリスマスディ」を地域の方々をも招き実施する。

（2）中学校・高等学校

①新制服・新制定品の導入

中学・高校共に 2026年度より生徒会・自治会が中心にデザインした「生徒が着たいと思う魅力ある」「オプション・アイテムを多く設定することで自分の個性に合わせた着こなしができる」制服を導入することで、梅花ブランドを向上させ生徒募集につなげる。同時に鞄や体操服等の制定品も見直し、新たなルール作りや新制定品を導入する。

②高校改組の取り組み

2025 年度入学生から学年進行で新たな５コース制を実施。2026 年度はさらにカリキュラムや行事等の変更を行い魅力ある梅花独自のプログラムを構築することで生徒・保護者の満足度向上を図る。新しく魅力的に変化することの告知広報に力を入れる。

③入試広報体制の強化

塾・公立中学校への訪問については、合理的な計画を策定する。特に近隣の徒歩・自転車通学圏内からの志願者増を図るために、大手塾だけでなく、近隣の中小の塾についても関係強化を図り、信頼関係を築く。

④学校案内パンフレットの刷新

これまで中学と高校の合冊パンフレットであったが、それぞれを分けて作成しターゲットを絞ることで、効率よく広報することをめざす。また、作成を中学高校の入試広報部が中心となって行うことで、より細かな現状に即した情報を盛り込む。

⑤募集対策行事の見直し

校内での入試行事はそれぞれの内容や回数等を見直し、入試行事参加者を入学まで繋げる率の向上をめざす。校内での入試行事では、専属アシスタントとして活動する生徒「梅花メイズ」を募り、本校のアピールを強化する。また、校外で実施してきたイベントは回数を減らし、学内行事に注力していく。オープンキャンパスの効率化を図り、来場者の拘束時間減を実行する。

⑥塾対象説明会

年４回実施してきたが、年２回（６月ホテル阪急インターナショナル・９月本校）に集約し、効率よく運用すると共に 1 回当たりの参加塾数増をめざす。梅花の新しい教育の広報とブランド力向上をめざす。

⑦ホームページの充実

週５日制や高校新５コース制の導入、豊中移転 100 周年を機にホームページを刷新する。常に新しい情報が提供できるように更新の頻度を上げ充実を図る。また、動画映像の掲載を積極的に進めると共に、スマートフォン対応への充実を図る。さらに、常に閲覧者の分析を行い、効果的なホームページ運用をめざす。

⑧Web 広告および公式 X の実施

パソコンやスマートフォンの普及を鑑み、Web 広告・公式 X を用いることで、本校ホームページへ導き注目度アップを図る。インスタグラムの充実、クラブや大学とハッシュタグで連動し、オール梅花の力を発信していく。

⑨スクールバスの運行

豊中キャンパス－少路駅間のスクールバスを行事等に合わせて臨機応変に運行し利便性の向上を図ることで、大阪モノレール沿線および少路駅周辺地域の生徒募集を強化する。

⑩小学生対象プログラムの充実

小学生英語暗唱大会「BAIKA CUP」、「こどもミュージカルアカデミー」、「キッズレイダース」、「Kids English」、「新体操スクール」を継続する。地域貢献や梅花ブランドのさらなる充実を図ることで中学入学生の確保につなげる。

特に Kids English ではクラス数を増やすことで恒常的に発生していたキャンセル待ちを解消し参加者数の増加を図る。「こどもミュージカル」は「こどもミュージカルアカデミー」と名称と内容を刷新し、より充実したプログラムを提供する。

（3）幼稚園

①積極的な広報活動

・ホームページを通して園の教育理念と保育内容や特色を広報し、入園意欲を高めるよう努める。また、インスタグラムで日常の保育や子どもたちの様子、未就園児教室や園庭開放の案内等を日々投稿し、積極的に PR していく。

②未就園児教室等のあり方の検討

・２歳児を対象とした未就園児教室への入会者が減少していることから、保護者や地域社会のニーズに応えた子育ての支援策について、１歳児も視野に入れ検討する。
・「満３歳からの保育料無償化」に伴い、昨年に引き続き、未就園児教室在籍児も満３歳となった翌月から月会費の無償を実施する。
・園庭開放の実施については、本園在籍の未就園児親子のみならず地域にも広く周知し、本園を身近に感じて未就園児教室への入会や３歳児での入園に繋がるよう、園の教師と未就園児教室スタッフとがしっかり連携をとり、充実した活動の場を設ける。

③課外活動の充実

・外部から専門講師を招聘し、「音楽リズム」、「英語」、「絵画造形」、「体操」、「剣道」の各活動により一層の充実を図る。
・学園の公式クラブとしてのチアリーディングや女子大学児童文学科の OG の指導による「こうめ文庫」（絵本活動）においても本園独自の取り組みとして広報を行う。
・降園後のサークル活動（書道、バレエ、新体操、サッカー）については、在園児就労保護者支援の一環として、また兄弟姉妹関係の入園につながる卒園児のサークル活動（書道、バレエ、新体操、英会話）についても引き続き協力体制を維持する。

④認定こども園に向けて

・2027 年度から幼稚園型認定こども園に移行することに伴い、１号認定の満３歳児の入園を検討する。
・移行については、在園児の保護者をはじめ入園を検討している保護者への説明を十分に行い、保護者ニーズに応えた魅力ある幼稚園としての PR に繋げ、園児獲得を図る。

３．財政健全化への取組み

入学者数の減少傾向に歯止めがかからず、学園経営を圧迫している。幼稚園、中・高校、大学すべてで定員割れで、収入不足（赤字）の状況が 2024 年度から続いている。

財政逼迫化に備え、緊縮財政での運営に舵を切っているが、今年度は、豊中移転 100 周年、2028 年には梅花学園創立 150 周年を迎えることもあり、生き残りをかけて、学校改革に取り組んでいるところでもある。従って、予算についてはメリハリをつけつつも、学校改革や学校の魅力度向上に繋がる必要な予算は計上していく。

また、現在の財政悪化状況を単年度で解消することは難しいため、中期的な視点に立った財政再建計画を学園上げて取り組んでいく。

（2026 年度予算編成方針）

1. 2026 年度予算ガイドラインに沿った内容で、各組織で予算編成を行う。
   ガイドラインは、特別予算（新規並びに重点項目として個別に承認したもの）を除いた一般予算（例年計上されている項目）の 10%の削減を行う。
2. 学生・生徒・園児の満足度を低下させる予算削減は、極力実施しない。学生・生徒・園児の学校（園）生活に必要なコストを essential cost と位置づけ、資格・検定料補助、通学用バス関連、食堂補助、教室の光熱水道費等は、削減対象から除く。
3. 人件費については、ゼロシーリングを基本とする。ただし、人員を補充する場合は、多様な人材を活用し、学園の計画に基づき実施する。

４．DX への取組み

昨年７月に策定した「梅花学園 DX 化のロードマップ」に基づき、「学生」「教員」「事務」の各視点で「場所・時間の制約からの解放」、「情報・資料等の電子化・共有による業務効率の向上」と「安全性・快適性の向上」の 3 本柱を実現する ICT 環境整備を推進し、各組織に伴走しながらＤＸ推進を支援する。

セキュリティに関しては、企業に留まらず最近は学校関係もサイバー攻撃対象になっており、対策の強化は不可欠である。DX の進展と歩調を合わせ、規程類の整備をはじめとする組織的対策、統合認証基盤や多要素認証適用拡大の技術的対策、および人的対策をそれぞれ順次講じていく。

また、従来からの学園の既存インフラの安定稼働対応、IT 教育環境の整備、無線アクセスポイント拡充によるネットワークの増強、デバイス使用のサポートなど学園内の ICT 全般に関わる対応も実施する。

５．教育環境の整備

（ｉ）茨木エレガンスキャンパス

（大学）

① 山草館 D 棟外壁・屋上等改修工事
② 図書館エレベータ改修工事
③ 図書館内環境設備整備

④　無線 LAN 環境の強化・充実

（ⅱ）豊中キャンパス

（中学・高校）

①　西館：全面リニューアル
　　照明の LED 化 / 床の張り替え / 机、椅子、ロッカーの入れ替え / 自動ドアの設置 / 内装、外壁、屋上の塗装

②　南館：照明の LED 化 / 木製収納の撤去、ロッカー設置、床の張り替え　/壁の貼り替え/1階男子トイレの改装

③　複合棟：1 階女子トイレと多目的トイレのリニューアル　食堂のリニューアル

④　クラブ棟：照明の LED 化 / ウォシュレットの設置 / 内装、外壁、屋根の塗装

（幼稚園）

①　園舎のリニューアル工事
　　保育室（サッシの取り換え / 内装の改修）
　　廊下（サッシを設置し室内化する）
　　１・２階のトイレの改修
　　園庭に遮光ネットを設置

②　厨房設備
　　スチームコンベクションオーブンの導入

③　各保育室への絵本スタンド等の導入

④　運動会等で使用する PA システム更新

以　上

BAIKA
1878